

川喜田半泥子と人間国宝たち

— 桃山ルネッサンス陶芸の近代化 —

はんでいし

川喜田半泥子は三重県の歴代 富豪の名門、川喜田家の跡取りとして明治11年(1878年)に生まれました。百五銀行の頭取をはじめ多くの会社の要職を務めて実業界で活躍しますが、その傍らで陶芸、茶道、書画、俳句などにも才能を発揮しました。特に「しろ」と自称しながら作る茶陶は、専門の陶工とは異なり、自由闊達で大胆でありながら高い品格を放ち、独自の美意識を貫く数寄風流人半泥子にしか到達できない境地であったといえます。

また半泥子は多くの陶芸家たちと年齢を超えてのおおらかな交友を結んでおり、荒川豊蔵、金重陶陽、三輪休和、中里無庵などといった桃山時代の茶陶を自分たちの制作の基とし、後に人間国宝となる陶芸家と親しく工房を行き来しました。

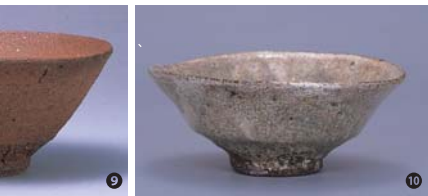
昭和初期は桃山時代の茶陶の美が再発見された時代でした。古窯の発掘から出土した陶片を糸口にして、忘れ去られた技術の解明とその再現に取り組む陶芸家たちが現れるようになります。それはまさに桃山ルネッサンスともいえる

き一大現象だったのです。

しかしそのなかで天衣無縫な半泥子は、単なる模倣、再現でとどまることを否定し、桃山茶陶から学ぶのはその表現の自由さ、独自の表現であることを指摘します。その姿勢は半泥子と交友を重ねていた才能ある陶芸家たちに少なからぬ影響を及ぼし、職人的意識の脱却と作家としての自覚を促しました。こうしたなかで、彼らはやがて伝統を踏まえた上での独自の表現を見出し、いき、陶芸の近代化という偉業を成し遂げます。

半泥子は技術的には彼らに学びながらも精神的には牽引する役目を担ったのです。

本展では半泥子という多才で遊び心に富んだ魅力的な人物とその作品を紹介するとともに、半泥子と親交があった北大路魯山人らを含む陶芸家たちの陶芸、書、絵画、書簡など172点から、昭和初期の桃山ルネッサンスとそれに伴う陶芸の近代化を展観します。互いに刺激し、高めあう、川喜田半泥子と人間国宝たちの表現をご鑑賞ください。

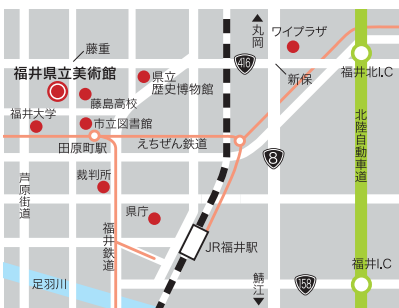


- ① 荒川豊蔵 志野砧形花入
- ② 北大路魯山人 織部かすみ網に鳥文扇面大鉢
- ③ 中里無庵(十二代中里太郎右衛門) 黄唐津叩き壺 / 東京国立近代美術館蔵
- ④ 三輪休和 白萩編笠水指
- ⑤ 金重陶陽 備前大破釜
- ⑥ 小山富士夫 朝鮮唐津茶碗
- ⑦ 三輪壽雪 鬼萩割高台茶碗
- ⑧ 二代小西平内 赤茶碗
- ⑨ 小西平内 井戸手茶碗 銘「甲子」
- ⑩ 坪島土平 粉引窯変茶碗

◎この展覧会で出会える人間国宝たち
荒川豊蔵(志野)瀬戸黒の重要無形文化財保持者
金重陶陽(備前焼)の重要無形文化財保持者
三輪休和(萩焼)の重要無形文化財保持者

中里無庵(唐津焼)の重要無形文化財保持者
三輪壽雪(萩焼)の重要無形文化財保持者
※北大路魯山人は「織部焼」の重要無形文化財保持者の認定を辞退。

同時開催◎所蔵品によるテーマ展「福井の現代美術エトセトラ」(本展チケットでご覧いただけます)



交通のご案内

- コミュニティバスすまいる/福井駅前(西口)のりばより、田原・文京方面線約10分「県立美術館」下車。
- 京福バス/JR福井駅前(西口)10番のりばより、福井病院・藤島線(26系統)約10分「藤島高校前」下車(※土日祝は運休)。
- 車/福井駅前より約8分、北陸自動車道福井北ICより約15分。
- 福井鉄道・えちぜん鉄道/「田原町駅」下車徒歩8分。

※ご来館の際は、できるだけ公共交通機関をご利用下さい。お車の際はアイドリングストップにご協力下さい。

福井県立美術館

〒910-0017 福井市文京3-16-1 TEL:0776-25-0452 FAX:0776-25-0459
http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html